

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語 106人	算数 106人	理科 106人
第5学年	国語 99人	算数 99人	理科 99人

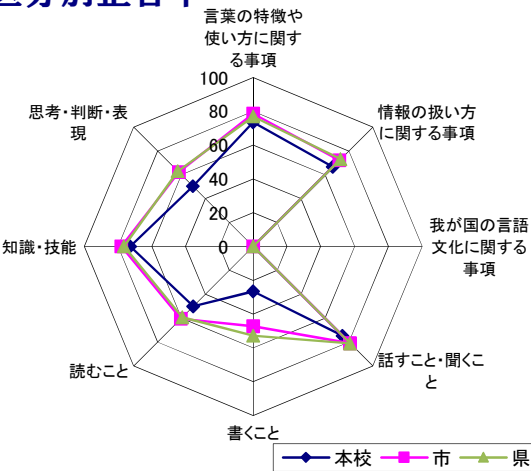
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.5	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	66.7	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	74.7	81.0	81.1
	書くこと	26.6	47.2	52.8
	読むこと	50.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	72.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	50.4	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

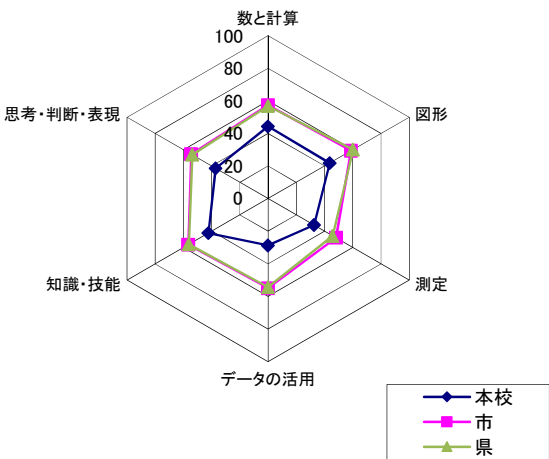
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県と比べて下回っている。 ○第3学年配当の漢字の読みに関しては、県や市の平均に近い、もしくは上回っている項目もある。 ●第3学年配当漢字の書き問題に関しては、県や市の平均近く下回っている。 ●ローマ字の読み方選ぶ設問において、県や市の平均を大きく下回った。	・既習漢字が定着するよう、日頃から漢字に取り組む機会を設けるようにする。指導をする際には、漢字単体の練習だけでなく、熟語や使い方にまで言及するようにする。 ・ローマ字表やICT機器のタイピング機能を活用して、ローマ字表記に触れる機会を増やす。個の能力に合わせた練習課題を設けステップアップを図るようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県と比べて大きく下回っている。 ○辞書の使い方にに関して、おおむね定着している児童は見られる。 ●国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ設問において、市や県の平均を約6ポイント下回っている。	・授業の中で国語辞典の使い方を指導するだけに留まらず、各教科において辞典を活用して調べる活動を取り入れることで、活用能力の向上を図る。 ・家庭学習においても辞典を使った課題を出し、国語辞典の使い方に慣れさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県と比べて下回っている。 ○自分の考えを理由を挙げてまとめる設問では、市平均に近い割合で考えを記述できている。 ●話し手が話した内容を説明した文を選ぶ設問では、市平均を大きく下回っている。	・友達や先生の話聞いた後に、話した内容のあらすじを聞いたり、言わせたりして要約する場面を作る。 ・国語の話す聞く単元だけでなく、学級活動などでも学級会などで司会の役割などを経験させる。
書くこと	平均正答率は市や県を大きく下回っている。 ○一部の児童はどの問題もある程度書けている。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうか見る問題については、市や県平均より28ポイント下回っている。 ●書くことについての問題は、無回答率が38.7%と高い。	・テーマを決めて作文したり、自分の考えを書く場面を授業でたくさん取り入れるなど、書くことに慣れさせる。 ・毎時間の学習や自主学習などで振り返りを毎回書かせ、自分の考えや感じ方を表現する語彙力を身に付ける。 ・2段階構成で書かせたり、条件をつけたりする作文形式に慣れさせる。
読むこと	平均正答率は市や県と比べて下回っている。 ○登場人物の気持ちの変化について想像する項目では、市や県平均と同じくらい正答できている。 ●指示語の問題では、市平均より18%下回っている。 ●文章の要約から空欄に適する言葉を書き抜く問題は、2問とも無回答率が非常に高い。	・指示語の意味や使い方などを押さえ、練習問題などにも取り組ませて意味を理解させる。 ・説明文や物語文などで、文章や話の内容を要約したり、あらすじを書かせたりして、要約する力の基礎を身に付ける。 ・問題文がある程度長いものに取り組ませ、問われていることを正確に理解できるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	44.3	57.4	56.9
	図形	43.6	58.7	60.1
	測定	32.5	48.1	45.7
	データの活用	28.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	42.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	37.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

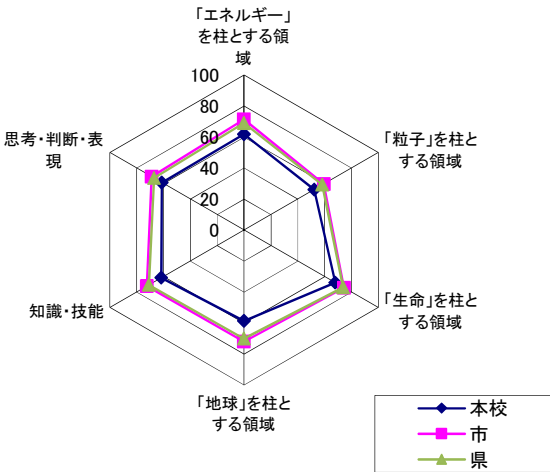
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市と比べて下回っている。 ○3桁－3桁の計算の問題の正答率は、県より0.5ポイント高い。 ●わり算の余りを切り上げて答えを求める問題の正答率は、県より24.5ポイント低い。	・絵図や実物を用い、余りを切り上げる理由を視覚的・体験的に理解できるようにする。 ・問題文の意味を丁寧に読み取り、何を問われているかやその答えになる理由を説明させる活動を設定する。
図形	平均正答率は、県や市と比べて下回っている。 ●球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ問題の正答率は、県より17ポイント低い。 ●正三角形を作図する問題の正答率は、県より27.3ポイント低い。	・実物の球を実際に切ったり、図を描いたりして、切り口が必ず円になることを体感させる。 ・ICTを活用してコンパスの正しい使い方を確認し、繰り返し練習しながら定着が図れるようにする。 ・正三角形の性質をもとに、作図方法が成り立つ理由を考える活動を設定し、性質と作図を結びつけられるようにする。
測定	平均正答率は、県や市と比べて下回っている。 ○時刻を求める問題の正答率は、市平均に近い。 ●単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いかを説明する問題の正答率は、県より15.1ポイント低い。 ●重さを、基準量のいくつかで考え説明する問題の正答率は、県より24.2ポイント低い。	・メートルとキロメートルの関係を繰り返し確認し、単位をそろえる必要性を具体的な例で考える活動を設定する。 ・問題文から、何を比べるか・どの単位にそろえるか・どのように説明するかを整理する時間を取り入れる。 ・実際に重さを比べ、「〇gは△gのいくつ分です」などの説明文の型を使いながら数量の関係を言葉で表す活動を設定することで、いくつかで考える力を育てる。
データの活用	平均正答率は、県や市と比べて下回っている。 ●二次元の表から読み取れることとして正しいものを選ぶ問題の正答率は、県より28.4ポイント低い。 ●棒グラフが何を分かりやすく表しているかを問う問題の正答率は、県より24.3ポイント低い。	・実生活に関わる表などを使い、問題文の問いと、表のどの部分が関係しているのかを整理しながら情報を読み取る練習を重ねる。 ・グラフの特徴や表していることを言葉で説明する活動を設定する。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	61.8	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	52.2	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	67.9	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	58.6	72.0	70.1
観点	知識・技能	61.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	61.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市・県と比べて下回っている。 ○ゴムの本数を増やして実験した結果を適切に表しているグラフを選択できるかどうかをみる設問では、県の正答率を5.9ポイント上回っている。 ●磁石につくものとつかないものを調べた実験の結果から正しく考察している人を選択できるかどうかをみる設問では、県の正答率を8.4ポイント下回っている。	・実験を通して実感を伴った理解を図るようにする。また、実験結果を利用し、同じような事象を推測する場面を取り入れ、推測の根拠を示しながら説明する活動などを取り入れて指導していく。 ・実験をするときに、その目的や手順、結果をしっかりと押さえた考察ができるように支援する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市・県と比べて下回っている。 ○実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える問題では、88.2%の正答率だった。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想をもとに実験結果を構想できるかどうかをみる設問では、県の正答率を10.9ポイント下回っている。	・実験を行う単元については、今後もしっかりと準備し、予想、結果、考察の学習過程を丁寧に指導していく。 ・「ものの重さと体積」について復習し、さらなる知識・技能の習得を図る。 ・実験をするときに、その目的や手順、結果をしっかりと押さえた考察ができるように今後も支援する。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は、市・県と比べて下回っている。 ○モンシロチョウの体のつくりについて理解しているかどうかをみる設問では、県の正答率を3ポイント上回っている。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを捉えることができるかどうかをみる設問では、県の正答率を13.7ポイント下回っている。	・身近な自然の観察について、植物や昆虫などへの児童の興味・関心を、スケッチや文章で表す活動に生かしたい。その際、どうしてそのように考えたのかなど、自分の考えやその理由が文章で正しく表現できるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市・県と比べて下回っている。 ○太陽とひかげの位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問題では66.7%の正答率だった。 ●温度計の使い方が身に付いているかどうかをみる設問では、県の正答率を25.7ポイント下回っている。 ●太陽と日陰の位置の関係と校舎によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて考えることができるかどうかをみる設問では、県の正答率を8.1ポイント下回っている。	・温度計などの道具や実験機器を使用する際は、繰り返しそれらの使い方を説明してから実験に臨むことができるよう、授業を展開する。 ・かげのできる向きと太陽の関係など、日々の生活体験と関連付けられる視点を多く提供し、日頃から科学的な現象に対する興味・関心を高められるよう支援する。

宇都宮市立五代小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「一か月に何冊くらい本を読むか」という項目は、「11さつ以上」の割合が県平均より7ポイント高く、よく本を読む児童が多い。

○「疑問に思うことはわかるまで調べたい」項目は、「はい」と答えた割合が県平均より5ポイント高く、学習意欲は高いことが分かる。

○「友達との話し合い活動を通して、考えを広げたり深めたりできている」と感じている児童の割合は、県平均より6ポイント高い。話し合い活動に意義を感じている児童が多い。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」割合は、肯定的に答えた割合が県平均より高い。

●「家で学校の授業の復習をしている」割合が、県平均より低く、どちらかというとしていない児童が多い。

●「テストで間違えた問題を勉強している」割合について、「よくしている」割合が県平均より10ポイントほど少ない。一方で、少し復習している割合は、県平均より高い。学習において復習の大切さを伝え、自主学習などと絡めながら復習する習慣を身に付けさせていく。

●「学校の授業時間以外の、平日1日あたりの勉強時間」が、1時間以上の割合が県平均より10ポイント以上少ない。60%の児童が30分～1時間程度であった。家庭学習の啓発を行い、家庭との連携を行う。

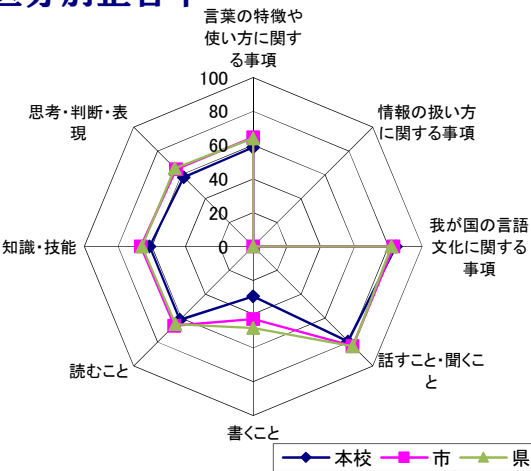
●「むずかしい問題にであうとよりやる気が出る」項目に肯定的に答えた割合は県平均より8ポイント低く、難しい問題を見るとやる気が出なくなる児童がやや多いことがわかる。まずは基礎を定着させることが大切なので、反復で基礎を徹底させる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」項目に対しては、「はい」と「いいえ」に二極化しており、得意な子と苦手な子ではっきり分かれている傾向が見て取れる。発表することへの抵抗感をなくすために、まずは簡単な発問から手を挙げさせるなど、苦手な子たちに対しても段階的に指導していく。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	84.5	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	79.4	83.3	83.4
	書くこと	29.4	42.8	48.2
	読むこと	61.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	61.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	58.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

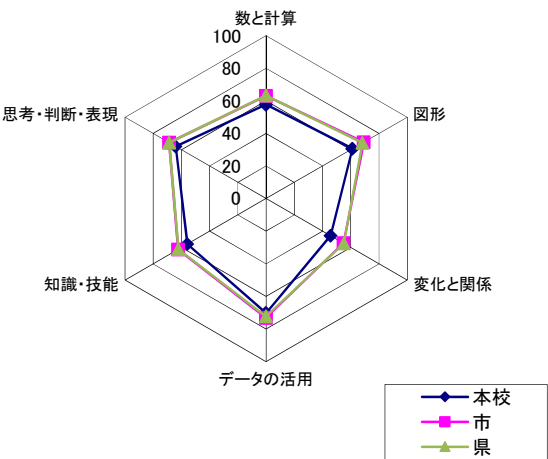
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。 ○第4学年までに配当されている漢字を正しく読む問題において、市の平均を上回っているものもあり正答率が90%以上の問題もあった。 ●第4学年までに配当されている漢字を正しく書く問題において、正答率が低い。	・普段から継続的に漢字を書く活動を取り入れ、漢字を書くことに慣れさせる。 ・学習した漢字の定着を図るために、小テストを実施し、意欲的に取り組むことができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均正答率よりもやや高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、市の平均正答率をやや上回っている。	・国語辞典や漢字辞典を活用し、多くの言葉についての理解を深めたり、朝の学習の時間や家庭学習を利用して、ことわざについて学習する時間を設ける。 ・覚えた言葉や日常生活や作文などで活用する機会を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県と比べてやや下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる設問では、県の正答率を1.5ポイント上回っている。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、県の正答率を11.1ポイント下回っている。	・話の内容の中心を意識しながら話を聞いたり、文章を要約する活動を繰り返し行い、相手が一番伝えたいことを捉えられるようにすると共に、工夫した点や共通点に気付けるよう指導していく。 ・日頃の話し合い活動の中で、話し合いの目的を意識しながら聞くことができるように指導していく。また、意見の共通点に気付いたり、相違点について考えたりする活動を多く取り入れ、考えがまとめられるように繰り返し取り組んでいく。
書くこと	平均正答率は、市・県と比べて低い。 ○アンケート調査の結果から読み取ったことを、文章で書こうとする意識が見られる。 ●指定された長さで文章を書くことができるかの設問では、県平均正答率を21ポイント下回り、35.0%だった。また無回答が32.0%だった。	・文章の中で重要だと思ふ箇所に線を引くなど他の文と差別化を図り、段落などの構成を考え、適切に読み取ったことを相手に伝わりやすい文章にまとめることができるよう指導する。 ・書くことに苦手意識をもつ児童が安心して自分の考えたことを記述できるようにするために、短い文章で「書く」場面を意図的に設ける。
読むこと	平均正答率は、市・県と比べて低い。 ○物語分の登場人物の気持ちやその変化について読み取る設問では、県平均正答率をやや上回っている。 ●文章を読んで感想や考えをもつことができるかどうかをみる設問では、県平均正答率を7.4ポイント下回っている。	・文章を読む際には、各段落に何が書かれているのか要点を押さえながら読むような指導をするとともに、どんな感想や考えをもったかについて、話したり書いたりする活動を積極的に設ける。 ・語彙力や読解力の向上のため、日々読書の習慣付けを図る。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.7	63.0	63.3
	図形	61.2	69.2	68.3
	変化と関係	45.6	54.8	55.0
	データの活用	70.2	73.1	72.3
観点	知識・技能	55.7	62.3	62.1
	思考・判断・表現	64.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

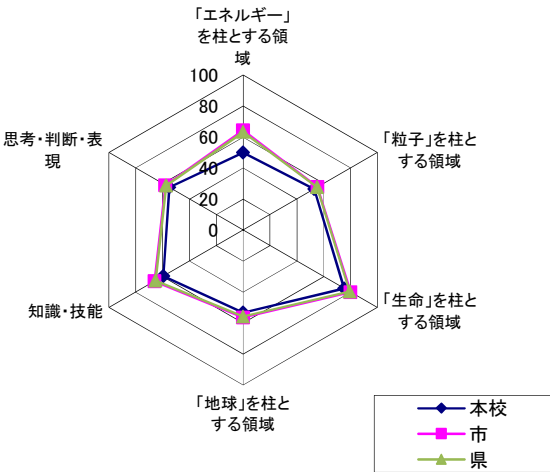
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○計算の間違いを説明する問題の正答率は58.3%で、市の正答率より2ポイント以上上回っている。 ●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表す問題の正答率は、市よりも10ポイント下回っている。 ●2けた÷2けた(余りあり)の計算、式の意味を表す図を選ぶ問題についての正答率は、それぞれ市よりも9ポイント下回っている。	・数直線や具体物を使いながら、数の大きさや分数の大きさについて捉えられるようにし、分数の概念についての理解を深められるようにする。 ・わり算についてだけでなく、日頃より四則計算の式を図で表すことに繰り返し取り組みせながら、式の意味を理解できるようにし定着を図っていく。
図形	○立体と直方体の違いを選ぶ問題の正答率は80.6%と比較的高く、市の正答率に近い。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題の正答率は、市の正答率よりも9ポイント下回っている。また、三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題については、市よりも12ポイント下回っている。	・今後も具体物を使用した課題について継続して取り組み、立体についての知識を確実に身に付けさせ活用できるようにする。 ・三角定規の一つ一つの角についてよく確認をした上で、三角定規を合わせて角を作ったり、同じ角を見付けたりしながら角についての知識を深め定着が図れるようにする。 ・作図する機会を増やし慣れさせることで、図形に対する苦手意識を軽減し、更には活用しようとする意欲を高めた。
変化と関係	○割合を使った長さの求め方を説明する問題の正答率は、県と同程度である。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題の正答率は、県よりも16.1ポイント、市よりも15.3ポイント下回っている。	・文章問題への苦手意識を減らし、意欲的に取り組むために他教科においても文章問題を解く機会を設けて、内容を正しく把握する力を身に付けられるよう繰り返し指導する。 ・表から情報を読み取ったり、表したりする活動を多く取り入れることで理解を深め、数量の関係を捉える力を身に付けられるようにする。
データの活用	○二次元の表の空欄がどのような人数を表しているか説明する問題では、市・県どちらも同程度である。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、県よりも7.2ポイント、市よりも7.7ポイント下回っている。	・引き続き自分の考えを友達に伝えたり、文章にして表現したりする活動を取り入れ、理由や根拠を示しながら説明できる力を身に付けられるようにする。 ・他教科においてもグラフや表を読み取る時間を確保し、設問の中身を正確に捉える力を養っていく。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	52.9	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	75.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	53.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	59.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	55.0	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市や県より下回っている。 ○回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針のふれ方を示した図を選ぶ問題の正答率は高く、県全体と比べると1.3ポイント上回っていた。 ●乾電池の数のつなぎ方が異なる3つの回路のうち、プロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題の正答率が低く、市より14.3ポイント、県より13.2ポイントと、それぞれ下回っている。	・直列と並列の2種類のつなぎ方と、それぞれのつなぎ方の電流の違いについて再復習を行うようにする。また、多少の時間をかけて、再度、実験を行わせることで、理解が深められるようにする。さらに、実験結果を表や文章、モデル図などを持ちいて表現できるように支援を行っていくようにする。 ・電流計の使い方や目盛りの見方についても、再復習を行うようにする。
「粒子」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市や県より下回っている。 ○ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の手ごたえの変化を答える問題の正答率が高い。 ●水を冷やす実験について、提示された予想に沿った結果を示すグラフを選ぶ問題の正答率は、市より4.4ポイント、県より5ポイントと、それぞれ下回っている。	・授業で学んだことは自分の身近なところでどのように生かされているかを実感できるよう、今後も生活とのつながりを授業の中で指導していく。 ・実験などの体験的な活動を行う前に、事象を捉える、課題を見出す、課題に対する予想をする、仮説をたて実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い、課題解決学習となるようにする。
「生命」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市や県より下回っている。 ○骨の働きについて選択肢から選ぶ問題においては、正答率は市町・県全体どちらにおいても下回っているが、無回答率は市町・県全体より下回っていた。 ●関節について、名称を答える問題の正答率は、市より11.3ポイント、県より12.5ポイントとそれぞれ下回っている。	・植物の成長過程を、正しく理解するために、デジタル教材を用いて動画を見せたり、植物の成長過程の写真を並び変える活動をしたりすることで、成長過程の流れを意識させる工夫を取り入れる。 ・関節や骨については、理科の授業を自分事として捉えられるようにするため、自分の体や人体模型を使って調べたり、もし関節や骨がなかったらどうなるのかを授業の中で考える活動を行う。
「地球」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市や県より下回っている。 ○一日の気温の変化の様子を表したグラフを読み取り、選ぶ問題の正答率は良好であった。 ●水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称を答える問題の正答率は、市より8.1ポイント、県より9.4ポイントとそれぞれ下回っている。	・いずれの問題においても無回答率が市および県の平均より上回っていることから、正答率の低さと無回答率の高さは関係していると考えた。日頃からわからなくても空白にせず、何かは書いてみようとする練習をしたり、間違っても大丈夫という安心感を子供に感じてもらうようにする。 ・水のすがたの学習において、物質の固体・液体・気体の特徴を目で見て観察できるよう、工夫した実験を行うようにする。また、デジタル教材を活用し、映像なども用いて水のすがたの変化の様子を学べるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は97.2%であり、これは県の割合を上回った。多くの児童が家庭での学習を習慣付けていることがうかがえる。今後も家庭と連携し、この良い習慣を維持できるよう支援していく。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」という項目では、78.9%の児童が肯定的回答をしており、理由を明確にして表現する学習態度が身に付いていると考えられる。今後も国語科を中心に自分の考えを書く活動を取り入れ、習慣化を図りたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的回答の割合は39.4%と、県の割合と比較して低い結果となった。この結果から、自ら調べる習慣が十分に身に付いていないことが分かる。授業内外で辞書を使う機会を増やし、言葉の学習に対する意欲を高める指導を継続していく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合は75.0%であり、約4分の1の児童が自分から話し合いに参加することに消極的であることがうかがえる。今後も、ペアワークや少人数での話し合いを増やすなど、発表しやすい機会を意図的に設けることで、すべての児童が安心して発表できるような温かい学級づくりに努め、一人ひとりが自分の意見を表現する力を育てていきたい。

宇都宮市立五代小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・言葉のサイクルを生かした授業づくり ・「使える言葉」を増やす意味調べ学習 ・学力向上の支えとなる土台づくり	・児童にとって必要感や必然性のある言語活動(目的のある言語活動)を取り入れた単元づくりを行う。 ・「書く」活動を意図的に設定することで、自らの学びを視覚化し、整理することができるようにする。 ・各学年に35冊ずつ購入した辞書を置いておき、ふだんから調べ学習に生かす。 ・朝の活動の時間を活用し、読書活動の推進、コグトレ、視写等に取り組む。	・各教科とも、多くの領域で正答率が県・市の平均正答率を下回っている。 ・自分の意見を書いてまとめることに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	基礎基本、既習内容の定着 基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。